

九州大学マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム  
活動報告書

2020-2021

Graduate Program of Mathematics for Innovation  
**Annual Report**

# Contents

## 2020-2021

### Annual Report

I はじめに	2
--------	---

## II プログラムについて

1. プログラムの概要	3
2. プログラム学生	4
3. 連携先機関	4
4. プログラム担当者	5
プログラム責任者	
プログラムコーディネーター	
プログラム担当者	
5. 教育体制	7
6. サポート体制	9
7. 入試状況	10

## III 活動記録

1. 活動記録	11
2. 活動実績	13
3. 活動内容	14
キックオフシンポジウム	
General Meeting	
グローバルアドバイザーボード	
卓越大学院プログラム 委員現地視察	
卓越大学院プログラム プログラムオフィサー現地訪問	
卓越社会人博士課程制度	
Prelims	
英会話学習サポート	
マス・フォア・イノベーションカフェ	
マス・フォア・イノベーションセミナー	
学生満足度調査アンケート (2回分)	
4. 広報活動	27
ロゴマーク	
リーフレット	
ホームページ	
マス・フォア・イノベーション関係学府パンフレット	
ギャラリー	
その他	

## IV 学生レポート等

1. マス・フォア・イノベーションカフェ発表	32
2. 数学共創・創発モデリング報告	36
3. 研究活動成果	40
受賞	
論文発表	
学会発表	
その他研究活動	
4. Prelims Abstracts	44

# I

## はじめに

本報告書はマス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラムの令和2年度、3年度の活動状況と成果について概要を報告するものです。

マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラムは文部科学省「卓越大学院プログラム」事業に令和2年度に採択されました。令和3年度には、九州大学大学院数理学府、システム情報科学府、経済学府から第1期生を受け入れて開始され、令和4年9月の現在は33名の学生がプログラムを履修しています。

本プログラムの目的は、優れた数学力および統計力を基盤として、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する、卓越した数学博士人材を育成することにあります。この目的のために、本プログラムにおいては他分野や産業界との共創・創発を目指す「数学共創モデリング」、「共創力強化インターンシップ」など様々なカリキュラム上の工夫、マルチメンター制によるきめ細かい研究支援、手厚い経済支援など先進的な制度が提供されています。本プログラムを修士・博士一貫の文理横断型学位プログラムとして構築・発展させることにより、九州大学のみならず我が国の大学院改革を推進・先導することが我々の目指すところです。

本プログラムの実質的な活動初年度となる令和3年度にはコロナ禍のため、一部オンラインになるなど変更を余儀なくされた部分もありましたが、概ね順調に実行されました。また、本プログラムを実施する教育組織が九州大学大学院数理学府、システム情報科学府、経済学府が連携して設置するマス・フォア・イノベーション連係学府として令和4年4月に発足し、プログラムは新たな段階に入りました。

本プログラムは上記3学府からなる連係協力学府のみならず、産業界を含め九州大学内外の多くの関係者の協力なしには成り立ちません。プログラムの現段階での実施状況について本報告書において報告し共有することで、今後のプログラムの改善と発展の糧といたしたく思います。

令和4年9月

九州大学大学院マス・フォア・イノベーション連係学府長  
マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム責任者

辻井 正人